

令和3年度 学校自己評価システムシート 日高市立高萩北中学校

目指す学校像	よさや取り柄を伸ばし未来を創造する力を育む学校
重点目標	「考える」から「やりきる」 1) 基礎・基本の定着 2) 教師力・授業力・人間力の向上 3) 生徒指導・教育相談の充実 4) 道徳実践力や人権感覚の醸成 5) コミュニティ・スクールを基盤とした小中一貫教育の推進

学 校 自 己 評 価						学校運営協議会での評価		
年 度 目 標			令和3年度評価 (令和3年12月24日現在)				実施日 令和4年1月20日	
評価項目	具体的方策	評価指標	A+Bの割合		達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	学校運営協議会の委員からの意見・要望・評価等
			職員	保護者				
組織運営の充実 (小中一貫の視点)	・職員会議提案資料に学校教育目標と一貫した方向性を持って全ての教育活動を行う。 ・誰一人見捨てない姿勢を貫き、いじめを予防する	1 学校教育目標「自立・創造・貢献」を目指して努力している	96	96	・職員会議提案資料には、学校教育目標との関連が明確に示されていた。行事の意義づけに目標が反映されていた。 ・学級目標が学校教育目標との関連を考えたものとなり、生徒の意識が高まった。 ・人権カレンダー、人権標語、また、日々の授業を通していじめの予防ができた。	A	・学校教育目標の中心は「自立」と考えている。これが「創造」「貢献」へつながる。次年度は、「自立」に特化して生徒一人一人を伸ばしていく必要性を感じる。 ・人権カレンダーが学校文化として定着し、生徒は意識して生活している。SNSトラブルへの対応が課題である。	・コロナ禍において、目標を達成すべく諸課題に取り組んでいることが、生徒の日常の生活の様子からもよく感じられる。生徒のやる気を喚起する指示など、一つ一つの地道な取り組みが出来る。 ・人権カレンダーが学校文化として定着し、お互いの人権を尊重し合える学校の実現を期待する。 ・コロナ禍で制限がある中、先生と生徒が近い目線で色々な工夫をし、取り組んでいることが生徒の行動に表れていて評価できる。 ・SNS等によるいじめの防止は、教師、保護者、地域が高い関心をもち取り組む必要を強く感じる。(むすびプロジェクト) ・不登校について、原因を究明し、保護者、地域と連携しながら解決につなげることを期待する。 ・職員が学校教育目標を常に意識できる工夫が見られ、素晴らしいと思います。 ・人権カレンダーは他人を思いやる意識づくりになっている。
		2 いじめの予防や改善に努め、生徒にとって楽しく通える学校にしている	100	95				
基礎学力の定着	・協同的な学びや協調学習を手法の一つとして取り入れ、全ての生徒の学びを保証する。 ・生徒の意識を高め、自宅学習システムなどを有効活用して学力を伸ばす。	3 学習内容が身につくよう「わかる授業」をしている	96	89	・コロナ禍にあって、ペア学習、グループ学習に多くの時間を当てられなかった。 ・わかる授業を目指して様々な工夫や授業改善を図ることができた。しかし、十分な学力を身に付けさせることが出来なかった。 ・家庭学習は個人差に開きがあり、改善が難しかった。	B	・今年度実施した個別の授業公開には、市教委よりご指導をいただき大きな成果となった。次年度は協同的な学びや協調学習を軸に学習指導を展開する。 ・生徒の活動である北中塾を軌道に乗せ、自主学習、補習の場を提供する。また、学びの貯金の評価し、改善する。	・先生が「わかる授業」を目指して工夫して取り組んでいる様子がよく分かった。学習しやすい雰囲気作りとてもよいと思います。 ・コロナ禍にあって、タブレットを活用したグループ学習を推進するなど、便利に上手に利用する取り組みに期待します。 ・学力の向上には、子どもたち一人ひとりの「学ぶ意欲」が最も大切。今後とも学習意欲を引き出す授業を目指してもらいたい。 ・中学では、より「分かる授業」への期待が大きくなると思います。学校と塾という傾向にならないことを希望します。 ・単位について、様々な取り組みを通して少しでも分化が揃えるよう努力を望みます。 ・基礎学力だけでなく、仲間作りや体作り、生活習慣作りなどを通して「学校で学ぶことが楽しい」と思える学校を目指して欲しい。 ・学校の環境が潤えば、生徒や先生の心も潤う。それが学習、生活にも繋がる。そんな風に感じました。
		4 生徒に家庭学習の習慣が身につくよう「学びの貯金」などの工夫をしている	85	79				
保護者や地域との連携 (コミュニティ・スクールの視点)	・教育活動の様子を積極的に発信し、コロナ禍にあって不透明な教育内容を外に開く。 ・学校への要望や意見に耳を傾け、真摯に対応する。	5 学校だより、定期メール配信、小中一貫だよりなどで教育活動を伝えている	100	97	・学校だより、定期メール配信や学年便り、学級便り等で教育内容を発信することができた。地域の方から読後の感想をいただくこともあった。 ・様々な意見や要望に対し、可能な限り応じた。 ・コロナ禍で学校公開がほとんど出来なかった。	A	・学校だより等について、働き方改革を意識しつつも定期的に発信していく。 ・地域や保護者の様々な意見や要望を整理し、実現可能なことを着実に実現していく。 ・コロナ対応を万全にし、学校公開等を実施する。 ・学校運営協議会を通して地域とのつながりを深める。	・定期メール配信はとても助かります。 ・地域や地域社会の支援を受けることも積極的にやることを望みます。 ・学校だよりを読むと校内の生徒と職員の様子がよく分かります。 ・学校だよりがとてもしっかりと楽しんでいます。頑張っている部活や生徒の紹介は励みになると思います。 ・コロナ禍で保護者、地域との連携が難しい中、学校からの定期メール、DMメール、学校だよりでの発信は連携に効果的だと思います。 ・コロナ禍においては、校内の様子が伺える学校だよりの役割が大きいのと感じる。毎号、生徒の活躍や善行を紹介することで、地域の方も愛着を持って北中の生徒を見守ることが出来るのだと思います。 ・コロナ禍で制約がある中でも連携を継続願います。
		6 保護者や地域の期待や要望に耳を傾け、改善しようとしている	100	91				
社会性人間性の育成	・道徳授業、学級の話し合い活動の充実を通して規律ある態度を育成する。 ・コロナ禍の制限がある中で最大限の成果が期待される行事を考え実施する。	7 あいさつ・言葉遣い・決まりを守るなど、規律ある態度の育成をしている	96	95	・一年を見通した計画に基づき道徳の授業が実施できた。学年の課題に応じて臨機応変に対応もできた。 ・教員は生徒の鏡、日々の教員の発する言葉が何より道徳教育であると感じた。 ・今年度はコロナ対応で行事の見直し、実施日を大幅に変更した。次年度は、コロナの有無に関わらず実施内容も検討していく。	A	・道徳推進教師を中心に、道徳教育をさらに充実させる。 ・これまでも同様に、教員が最大の教育環境であることを自覚し、率先垂範すると共に言動にも細心の注意を払う。 ・今年度はコロナ対応で行事を見直し、実施日を大幅に変更した。次年度は、コロナの有無に関わらず実施内容も検討していく。	・「職場体験学習」など、将来を見通した学習がコロナ禍で出来ず残念である。子どもたちが体育祭、合唱発表会などの行事や人の出会うを通して、豊かな感情を育んでいることに感謝します。 ・コロナ禍で生活が一変し、臨機応変な対応を求められたことと思いますが、道徳を学ぶ機会を失わずに済んだことで、生徒の心の平穏や生徒同士の心の繋がりが保たれたことと思います。 ・子どもたちは様々な機会の中で心を豊かにしていくと思います。コロナ禍で制限がある中、行事の内容を工夫、見直しなど良くさせて頂いた状況が伺えます。 ・校長先生が力が大きいので、あいさつや正しい姿勢で、私も同感です。修学旅行は残念でした。 ・生徒のあいさつ等、地域での評判は良い。スマホでの連絡はいいがないよう注意深く願っています。 ・社会に出てから大事なコミュニケーション能力を育む教育を望む。
		8 コロナ禍にあってでも行事の内容や実施方法を工夫し、心の育成をしている	100	94				
安心安全な教育環境	・地域の組織と連携して計画的に環境整備を進める。 ・委員会活動、清掃活動や北極星清掃を充実し、きれいな学校づくりをする。	9 花植プロジェクトなど緑化を行い、潤いのある環境づくりをしている	100	97	・地域の組織が小中一体となりスムーズな連携ができた。苗の準備、日々の見回り等、地域に支えられた緑化活動だった。 ・地域の方の期待に応え、委員会活動での水やりは、年間欠くことがなかった。 ・北極星清掃を軸に校内美化がよくなった。生徒の力で、古い校舎を心を込めてきれいにできた。	A	・次年度も、引き続き花植プロジェクトを軸に、校内の環境を充実させる。日常の水やり、除草活動を分担し、一部の生徒や教員に負担がかからないようにする。 ・清掃活動については、小中一貫の視点から、次年度は小学校高学年から中学校3年までを同じやり方で取り組む。 ・大規模改修を機に、管理備品を整理する。	・清掃活動をはじめとした小中と同じ活動を増やして欲しい。 ・学校の清掃活動は生活習慣、人間形成に極めて重要な意義を持つ。清掃活動を通して「自分の身の回りのことは自分で責任を持つ」ことの大切さを教える。 ・常に花が咲き、ゴミが落ちていない環境が生徒の心を豊かにし、助け合いの精神を培うことにつながる。 ・さすが中学生、校内がきれいです。清掃活動について生徒会、委員会でも考えさせるのもいいですね。 ・環境がよくなると思われず、校内の隅々まで整備が行き届いているように思います。大変な努力だとは思いますが、続けたい。 ・地域と連携して校内の緑化に努め、それを生徒の力で維持していること、北極星清掃では生徒の力で校内美化を実現できていることを嬉しく思います。 ・いつも生徒たちが一生懸命掃除をしているので、いつ訪問してもきれいで気持ちがいいです。
		10 清掃活動を充実させ、学校を清潔に保ち、安心して使用できるようにしている	96	96				

※達成度 「A」ほぼ達成(8割以上) 「B」概ね達成(6割以上) 「C」変化の兆し(4割以上) 「D」不十分(4割未満)